

ニュースレター 第4号
平成4年4月23日

日本精神保健看護学会

-The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing-

事務局：

〒150 渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学内
(学会会長：稲岡文昭)
TEL：03-3409-0875
FAX：03-3409-0589

第1回学会終了後、理事それぞれが企画委員、編集委員を担当し、第2回学会開催準備、第1号学会誌発刊準備に努めてきました。

第2回学会は、日本赤十字看護大学を会場として”精神看護の未来と現実”をテーマとして、7月4日(土)、5日(日)に開催される予定です。この日付は、精神保健法が施行された昭和63年7月1日に近い、第1週の土・日曜日を学会開催日としようという趣旨によるものです。年間スケジュールをたてる時の目安になれば、と思います。

学会2日目のシンポジウムは、”精神看護の過去・現在・未来”で、歴史を視点におきながら、学会参加者の皆様と未来の精神看護を描けることを切望するしだいです。

また、学会誌は、6月中旬にできあがる予定です。従来にない斬新的な表紙とし、内容は皆様の参画のもとに充実させていきたいものと思っています。

なお、昨年末に教育委員会が発足しました。学会とは別に、教育プラン、ワークショップなどを熟考中であり、会員皆様と勉強できることを期待しております。

精神保健法の見直しの時期が迫り、また、医療保険の大幅な見直し、精神領域のナース不足と、狭義の精神科領域に服する医療従事者にとっては、さまざまな課題が山積みになっております。そんな臨床での問題を考える勉強会を設けることができれば、と願っている今日、この頃ですが……。

まずは、学会当日、皆様の元気なお姿にお目にかかれることを楽しみにしています。

<編集子>

第2回 日本精神保健看護学会総会・学術集会 プログラム

メイン・テーマ ” 精神看護の未来と現実”

○とき：平成4年7月4日（土）、5日（日）

○ところ：日本赤十字看護大学

<第1日：7月4日（土）>

13:00-13:50 総会

14:00-15:00 基調講演：稲岡文昭氏（日本赤十字看護大学）

15:15-17:30 ワークショップ

- (1) 精神力動概念をもちいた事例検討 - 粕田孝行
事例をもとにして、患者の心の構造を理解していくことを目的とする。
特に、現在の精神状態が患者の生育史、生活史とどうかかわっているのかを焦点にした、フリーディスカッション・スタイルで進行を試み、かつ精神力動概念への理解を紹介する。
- (2) 第4回精神（科）看護実習検討会 - 川口優子
精神科実習に関して教育側と臨床側の両側から考え、話し合う場を持ちたいという趣旨のもとで講演、事例、アンケート集計等という形で検討会を重ねてきた。
今回は、新カリキュラム上では精神科実習は行わないという動きもみられる現状のなかで、臨床側と教育側の両方から精神科看護を共有し、精神（科）看護実習の現状やこれからについて話し合う場をつくりたい。
- (3) 看護におけるグループ・アプローチ - ワークショップ”グループとは何か” - 武井麻子
このワークショップは、グループワークの具体的枠組みや方法についてのノウハウを教授するのではなく、実際に20名前後のグループに参加して、グループのダイナミックスやメンバーの心理を体験的に理解することを目指している。
- (4) カウンセリングの応用 - ネットワークの結び目として - 横田 碧
レポーター：NTT 小田原健康管理センター 遠藤俊子
昨年の”カウンセリングから学ぶ-その理解と伝達-”に継続するものとして、実践への応用を取り上げてみた。病者の所属機関の看護婦の村上静江さん、病院看護婦の犬塚知子さん等の発言も得ながら、参加者同士の応用体験を交流し合いたい。
- (5) リエゾン精神看護・学習会 - 池田明子、田中美恵子
前回と同様、看護婦が対応困難と感じる患者の事例をとりあげ、患者の問題だけでなく、看護婦自身の葛藤に焦点を当てながら、「どんな点について第三者の援助を求めたいか」意見交換し、リエゾンナーズの活用の仕方について検討してみたい。
- (6) アセスメントと看護ケアの評価 - 羽山由美子、川野雅資
精神科の臨床で、看護婦が日常業務の中で使える患者ケアのためのアセスメント用具2種類を紹介する。その1つは、単一の項目からなる総合評価尺度(GAS)、もう1つは、15項目からなる日常生活行動尺度である。これらを使って、客観的に患者をアセスメントし、また、ケアの評価の指標として、どの程度活用できるか、長・短所について討議する。

18:00-20:00 懇親会（於：日本赤十字看護大学）

<第2日：7月5日（日）>

9:30-11:45 一般演題発表

1. 学生に関するもの（座長：川野雅資）

- | | | |
|---|--------------|--------|
| 1)看護大学生の学生生活意欲の継時的変化 | 日本赤十字看護大学 | 田上美千佳他 |
| 2)看護学生のメンタルヘルスに関する研究 | 群馬大学医療技術短大 | 神郡 博 |
| 3)看護学生の精神看護実習におけるコミュニケーションの傾向 プロセスレコードの分析 | 静岡県立厚生保育専門学校 | 永野ひろ子 |

2. 患者に関するもの（座長：柏田孝行）

- | | | |
|-----------------------------------|-------------|--------|
| 1)神経性食思不振症患者の行動療法を通じた看護の考察 | 北里大学東病院 | 森下 豊子 |
| 2)初回入院の精神分裂病患者に対する補助自我としてのNsの働きかけ | 長谷川病院 | 山辺香菜子他 |
| 3)患者の暮らしを支えるもの－外来看護の視点から | 千葉県精神医療センター | 太田 知子 |

3. 家族に関するもの（座長：横田 碧）

- | | | |
|-------------------------------------|--------------|--------|
| 1)受療行動よりみた精神科入院後の家族援助の必要性 | 自治医科大看護短大 | 富川 孝子他 |
| 2)精神科救急病棟における家族への危機介入 | 千葉県精神医療センター | 伊藤 文 |
| 3)2人組精神病患者の事例における一解釈 治療拒否を家族の側から考える | 埼玉県立精神保健センター | 小田 心火 |

4. 看護職・チームに関するもの（座長：稲岡文昭）

- | | | |
|-------------------------------|-------------|--------|
| 1)自我の未熟な青年と看護者とのかわり | 聖隷三方原病院 | 小平 朋子他 |
| 2)3年目の看護婦が持つ無力感に対する働きかけについて | 長谷川病院 | 古庄しおり他 |
| 3)精神科早期リハビリテーションにむけてのチームアプローチ | 千葉県精神医療センター | 筒口由美子 |
| 4)精神科看護者の職場における人間関係についての認識 | 長野県立駒ヶ根病院 | 下島 浩他 |

5. 事例・その他（座長：羽山由美子）

- | | | |
|----------------------------|-------------|--------|
| 1)保護室Uターン患者の保護室再使用の有為性を探る | 千葉県精神医療センター | 坂牧 一哉他 |
| 2)精神分裂病回復期前期の看護診断 | 名古屋大医療技術短大 | 岩崎 弥生 |
| 3)精神科病棟の食事場面における患者の安心できる場所 | 日赤医療センター | 戸村 道子他 |

13:30-16:00 シンポジウム <精神看護の過去・現在・未来>

司 会：武井麻子

シンポジスト：埴 利三（井の頭病院）

松崎澄子（駒ヶ根病院）

宮本真己（東京都精神医学研究所）

川名典子（聖路加病院）

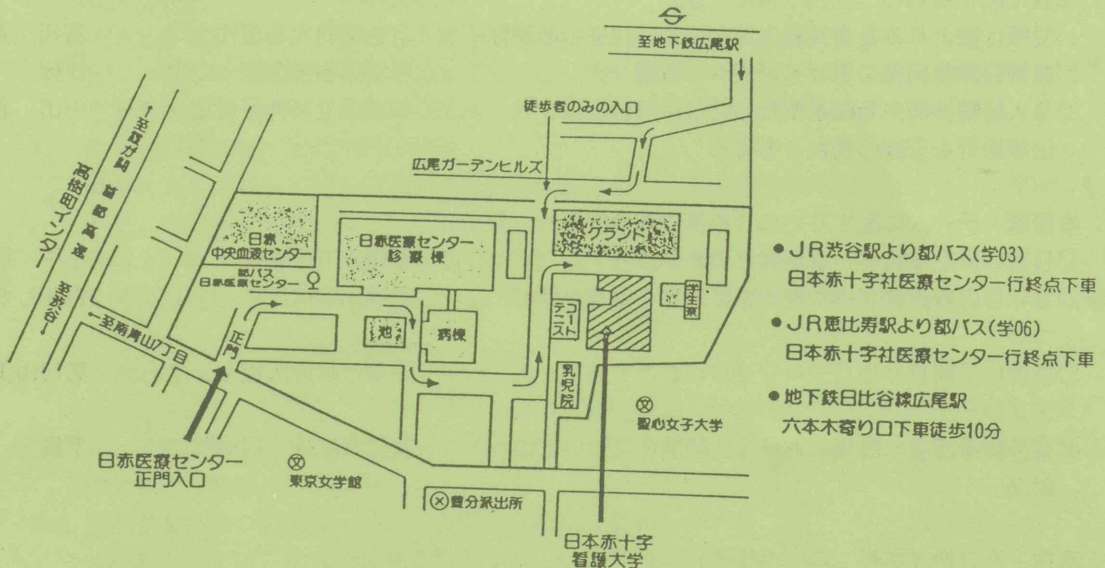
平成4年度総会・学術集会の申し込みについて

総会・学術集会に参加される方は、同封のはがきにご記入（総会を欠席される方は、必ず委任状にご記入下さい）のうえ、6月10日までに投函して下さい。

学術集会の参加費（3,000 円）は、同封の振込用紙にて、6月10日までに必ず払い込み下さい。参加の申し込みをせずに当日来られた場合、会場の都合により入場出来ないこともありますので、予めご了承下さい。

懇親会に参加される方も、学術集会参加費と同じ振込用紙で、会費（5,000 円）を払い込み下さい。

日本赤十字看護大学案内図



広尾駅周辺、並びに日赤医療センター正門前に多少、食事のできる店がございます。日曜日は学生食堂がしまっておりますのでご了承下さい。

事務局から

「平成3年度年会費」が未納の方には、振込用紙を同封しています。日本精神保健看護学会宛振込用紙にて、「平成3年度分年会費」7,000 円を、至急お振込み下さいますようお願い申し上げます。（1991年7月1日から1992年6月30日までが、平成3年度です。）

なお、すでにお振込みいただいていた場合、振込用紙を同封しましたことをお詫びいたします。また、学術集会費の振込みとおまちがえのないようにお気をつけ下さい。